

富山経済同友会

会報

2021.1月
No.299



松江

〈小泉凡館長を囲んで、小泉八雲旧居にて〉



高松

〈高松丸亀町商店街 ガラスドーム広場にて〉

県外視察（高松：11月17日～18日、松江：11月26日～27日）

CONTENTS

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| ● 年末懇親会 …………… 2 | ● 教育講演会等講師派遣 ……………15 |
| ● 新会員歓迎オリエンテーション …………… 3 | ● 課外授業講師派遣 ……………16 |
| ● 11月会員定例会 …………… 4 | ● リレーエッセイ⑩（特別顧問 中尾 哲雄 氏）…20 |
| ● 【鼎談録】11月会員定例会 …………… 4 | ● 活動報告 ……………21 |
| ● 第6回地域創生委員会（県外視察 高松市）…10 | ● 会員の入退会 ……………24 |
| ● 第15回文化スポーツ委員会（県外視察 松江市）…12 | ● 富山景気定点観測アンケート結果 ……………25 |
| ● 第6回人財創出委員会 ……………14 | ● 今後の予定 ……………25 |
| ● 第2回企業経営委員会 ……………14 | ● わが青春の1枚（五十嵐 博明 氏） ……………26 |
| ● 第8回教育問題委員会 ……………15 | |

新型コロナ対策を徹底して開催！

年末懇親会

令和2年を締めくくる年末懇親会が12月8日(火)、ANAクラウンプラザホテル富山で開催され、会員・来賓約150名が出席した。



来賓には富山県から新田八朗知事、伍嶋二美男教育長、蔵堀祐一政策監、柿沢昌宏総合政策局長、中谷仁観光・交通振興局長、布野浩久商工労働部長、富山県市長会から森雅志会長(富山市長)をお招きした。

今年入会の新会員の紹介、懇親会での感染予防対策について事務局から説明した後、麦野英順代表幹事が開会の挨拶を行った。

麦野代表幹事は「2020年は人類が新型コロナウイルス感染症に悩まされる歴史に残る1年だった。感染拡大は続いており、ワクチンが普及するまではマスクが



麦野代表幹事

ワクチンの代わりだと信じて、3密回避などによる感染拡大防止と経済活動の両立を図っていくことが大切である。各委員会では研鑽を積んで、新しい働き方、デジタルトランスフォーメーション推進などに取り組んでいく必要があり、来年も委員会への積極的な参加をお願いしたい」と語った。

続いて来賓を代表して新田知事が挨拶し、森

富山市長の発声により、当会では恒例となった地酒で乾杯が行われ、懇親会は和やかな雰囲気の中に始まった。

終盤には、魚津市出身のジャズシンガーCHIKOさんが、ギター奏者の廣井謙次さん、パーカッション奏者のヤマダベンさんと共演し伸びやかな歌声を披露した。オープニング山下達郎の「クリスマス・イブ」に始まり、越中民謡「こきりこ節」、富山県民愛唱歌「ふるさとの空」、「コーヒール



新田知事



森富山市長



ンバ」の4曲を歌い上げたのち、アンコールに応え中島みゆきの「糸」も熱唱した。

最後に、塩井保彦代表幹事が閉会挨拶を行い、「将来的にはワクチンがでてくるが、ウイルスの変異で戦いは続き、当分はウイルスとの共存を図っていく必要



塩井代表幹事

がある。そんな中でも、当会は来年1月から定例会も予定するなど活発な活動を続けていくこととしており、積極的な参加をお願いしたい。今後も引き続き、県、市町村との協力体制を進めていき、地域の発展、ひいては日本の発展に

貢献していきたい」と抱負を語り会を締めくくった。

なお、今回の懇親会は新型コロナウイルス対策として、①入り口での検温・消毒励行、②1テーブルの人数削減（8人→原則5人）、③離席はできる限り控え、離席の際にはマスクを着用、④手酌、⑤席で会話する時はホテル考案の「手に取るマスク」を使用、⑥アルコール除菌シートを配布、⑦会食中に事務局が手指の消毒に各テーブルを回る、⑧入り口ドアを開放、空調は強めにする。⑨コロナ対策・注意事項を記載したカードの配付、⑩歌手へ事前のPCR検査の依頼、⑪歌手用に大型アクリル板を設置など多くの徹底した対策を講じて開催した。

ようこそ 富山経済同友会へ！

～新会員歓迎オリエンテーション～

12月8日(火)、令和元年11月以降に入会・交代された新会員を対象としたオリエンテーションをANAクラウンプラザホテル富山で開催し、新会員35名を含む49名が参加した。

本行事は新会員の方に当会の活動を理解いただくことを目的に毎年開催している。今年度は当初8月に開催する予定だったが、新型コロナウイルス第2波の到来で富山県より「富山アラ

ート」が発出されたため延期になっていた。12月8日は年末懇親会が開催され、多くの会員に新会員を紹介することができることから、年末懇親会と同日に開催することにした。

塩井代表幹事が開会挨拶を行い新会員への歓迎の言葉を述べ、引き続き「富山経済同友会について」と題して、当会のこれまで



塩井代表幹事

のあゆみ・活動理念・今年度の活動状況等について詳しく説明を行った。最後に行事・委員会活動への積極的な参加を呼びかけオリエンテーションを終えた。



お酒と万葉歌の深い関係、秘められた想いに触れる

～ 11月会員定例会 ～

11月会員定例会が11月8日(日)、オークスカナルパークホテル富山で開催され、会員約90名が出席した。定例会は文化スポーツ委員会(五十嵐博明委員長)が主管し「檀ふみさんと語るお酒の万葉歌」と題し、女優・エッセイストの檀ふみ氏、高岡市万葉歴史館館長の坂本信幸氏、当会中尾特別顧問の3氏による鼎談形式で行われた。

3氏それぞれが選んだ、お酒に関わる好きな歌について、共感する部分や歌が詠まれた背景などを語った。檀氏は富山所縁の歌人 大伴家持の父、旅人が詠んだ「しるし験なき 物を思はずは ひと一 坏つきの 濁れる酒を 飲むべくあるらし」を挙げ「旅人の歌の中で私が最も知ってよかった歌。これを本家取りして『験なき 物を思はずは あかねさす 葡萄の酒を 飲むべくあるらし』と詠んで、私のテーマソングとしています」と紹介した。

坂本氏も旅人の歌「この世にし 楽しくあらば 来む世には 虫に鳥にも 我はなりなむ」を挙げ「享乐的に聞こえるが、旅人が最晩年になり奥さんに先立たれ、その悲しみの中で生き、酒を飲

む。輪廻転生の中で虫や鳥になってもよいというところに大変深い感じがある」と解説した。

中尾特別顧問は家持の叔母である大伴坂上郎女の歌「さかづき酒坏に 梅の花浮かべ 思ふどち 飲みての後は 散りぬともよし」を挙げ「散ってもいいと言っているが、本当は絶対に散ってほしくない、そういう想いを反語的な言い方で詠んでいる」と語った。

参加者は、お酒と万葉歌に対する3氏の想いに触れるとともに、檀氏による臨場感あふれる歌の朗読に酔いしれていた。

定例会後、檀氏、坂本氏を交えて懇親会を開催した。定例会のテーマ「日本酒」で乾杯で始まり、参加者一同和やかに歓談した。また、檀氏は各テーブルを廻り笑顔で写真撮影に応じるなど、会場は終始、華やかな雰囲気包まれていた。



坂本館長



中尾特別顧問



檀ふみ氏

11月会員定例会鼎談録 (R2. 11. 8)

「檀ふみさんと語るお酒の万葉歌」

女優・エッセイスト 檀 ふみ 氏

高岡市万葉歴史館 館長 坂本 信幸 氏

当会特別顧問 中尾 哲雄 氏

【檀 ふみ 氏 プロフィール】

作家 檀一雄の長女として東京に生まれる。慶應義塾大学経済学部卒。高校在学中に女優デビューし、1994年に『わが愛の譜・滝廉太郎物語』で第17回日本アカデミー賞助演女優賞を受賞。エッセイストとしても高い評価を受けており、著書に『ありがとうございます』『まだふみもみず』『檀流きものみち』などがある。1999年に『ああ言えばこう食う』で講談社エッセイ賞を受賞。また、NHK 教育テレビ「新日曜美術館」「N 響アワー」「日めくり万葉集」など多くの番組に出演している。

【坂本 信幸 氏 プロフィール】

1947年高知県生まれ。1972年同志社大学大学院修士課程修了。大谷女子大学助教授、奈良女子大学大学院教授を経て、2010年定年退職。現在、奈良女子大学名誉教授、高岡市万葉歴史館館長、全国万葉協会顧問、万葉の海を考える会代表、飛鳥を愛する会副会長、龍短歌会代表。著書に『万葉歌解』歌集『雪に恋ふ』、共編著に『万葉事始』『セミナー万葉の歌人と作品』(全12巻)『萬葉集電子総索引』ほか。NHK 教育テレビ「日めくり万葉集」では監修も担当している。

TEIDANROKU

◆ 万葉集の物語性と現代に通じる想い

【坂本】 鼎談といいつつ、私はコーディネーターとしてお二人のお話をお伺いする形で進めたいと思います。前もって、3人それぞれがお酒に関わる好きな万葉歌などを選んでおります。檀さんはNHK教育テレビ「日めくり万葉集」でのナレーションが大好評でした。せっかくですから、生で歌をお読みいただこうと思います。

【檀】 皆さん、特にこちらの中尾特別顧問が万葉集に大変お詳しくていらっしゃるって伺って、ちょっと戦々恐々としているんです。短歌の読み方は、どこで区切るかというのも大事ですよ。ね。「二句切れ」とか「三句切れ」とか……。

【坂本】 日本人は七五調に慣れ親しんでいますが、万葉の頃は二句切れが多いんです。檀さんが選ばれた最初の歌は二句切れです。

【檀】 「大和へ遣ると」で切るわけですね。

【檀】 「我が背子^{せこ}を 大和へ遣ると
さ夜ふけて^{あかときつゆ} 暁露^あに 我が立ち濡れし^ぬ」

この歌を詠んだ大伯皇女は天武天皇の御息女で伊勢の斎宮。弟・大津皇子は、陰謀に巻き込まれたと言ってよろしいのでしょうか。

【坂本】 はっきりとはしないのですが、万葉集の描き方ですと持統（天皇）のたくらみによって、天武天皇亡き後、自分の子どもの草壁皇子を皇位につかせたいために、大津皇子を排除していったと言われていますね。

【檀】 弟はそんな危ない立場にあるときに、こっそりお姉さんに会いに来るんですね。お姉さんはその弟を大和に帰さなければならぬ。「我が背子」というのは弟のことなんですけれども、帰途についた弟の無事を祈っているうちに、夜は更けて、暁の露に私は濡れてしまったという歌ですね。

【坂本】 そうですね。斎宮という身分の方ですから、天照大神に仕える大変高貴な方です。夜更けから明け方の露に濡れるまで立ち尽くし、弟が処刑されることが分かりながらも都に帰し遣らなくては行けないのです。「大和へ遣る」

が大変効いていますね。

【檀】 万葉集には物語性もあるんだなということを知った私の好きな歌の一つです。

もう一つ、女性なら絶対この気持ちがわかるという歌、男性にもわかる方がいらっしゃるかな？ 本当に現代に通じる歌だと思います。

「来むと言ふも 来ぬ時あるを 来じと言ふを
来むとは待たじ 来じと言ふものを」

「来む」行くよと言っても、「来ぬときあるを」来ないときがあるのに、「来じ」行かないよと言っているのに、「来む」来てくれるかもしれないというふうには待たない。「来じ」行かないよと言っているんだから。という歌ですよ。ね。

【坂本】 そう言いながら待っている感じがありますね。



【檀】 私がこの歌に共感するのは、かつて、好きだった人からの電話を待っていたことがございまして。絶対に掛かってこないだろうと思いつつ、電話を抱くようにして待っていたんですね。そんなにおかしいですか、中尾さん（笑）。

【坂本】 どうも先ほどの笑いでは、（中尾さんにも）そんなことがあった感じですね。

【中尾】 いやいや、そうでなくて。（檀さんは）極めて知的で、昔から憧れてて、もちろん美しくて。だから、いつも自分から待つなんてことはあり得なかったのではと思ったからです。（檀さんは）みんなにもてるから。

【檀】 女心を分かってらっしゃらない（笑）。（女性を）お待たせになったことはありませんか。あるいは電話するよといってしなかったこととか。

【中尾】 電話を掛ける約束はあまりしなかつ

たのですが、行くと言って行かなかったことはあったかもしれませんね（笑）。

【檀】 こういう女心をお分かりになるようにならないと（笑）。万葉集の素晴らしいところって、そういういろんな人の気持ちや考えが歌われていて、ふーっと自分の心に響くものがいまだにあるところです。すごいと思いますね。

【坂本】 そうですね。戦時中に出征する兵隊は本をそんなに持っていけなかった。戦後調査すると、背囊の中からは万葉集ばかり出てきたのだとか。

【檀】 多くの兵隊さんが戦地に万葉集携えていたと聞いて、何て知的な国民だろうと思っていたら、違うんですってね。検閲があるので、手紙に「貴女を愛しています」なんて書けないけど、万葉集には歌番号があるので、「僕の思いは巻〇の〇〇番です」とか、そういうふうを書く。要するに、暗号ですよ。巻〇の〇〇番はどんな歌だったかしらと、日本にいる恋人が万葉集をめくってみると、「逢いたい」とか「恋しい」とか切実な思いが詠まれている。そういうものだったりするわけですよ。

【坂本】 そんな感じで万葉集が愛されていたという時代があった。それは、万葉集を探したらどこかに自分の思いが、同じ思いの人がいるのが見つかるというふうなところがあったからでしょうね。

◆ はやりの結句「散りぬともよし」

【坂本】 そろそろお酒の歌にいきましょうか。まず檀さんから。



【檀】 はい。これは、万葉集の中で最高の歌です。

「^{しるし}駿なき 物を思はずは ^{ひとつき}一坏の
^{にこ}濁れる酒を 飲むべくあるらし」

大伴旅人の歌は「日めくり万葉集」のおかげで知ったのですが、その中でも知ってよかった歌のナンバーワンですね。今や、私のテーマソングです。

私、これを本歌取りして「駿なき 物を思はずは あかねさす 葡萄の酒を 飲むべくあるらし」と詠んでいます。

旅人は、つまらないことをぐずぐず考えているよりは、一杯の濁り酒を飲んだほうがいいといいました。私は一杯だけでは、また濁り酒でも寂しいので「葡萄の酒」としています。中尾さんのテーマソングは？

【中尾】 家持の叔母、大伴坂上郎女の歌。ちゃんと読んでね（笑）。

【檀】 「^{さかづき}酒坏に 梅の花浮かべ 思ふどち
^{のち}飲みての後は 散りぬともよし」

【坂本】 「思ふどち」は、親しい仲間のことです。

【檀】 私の選んだ歌を並べます。

「梅の花 ^{いめ}夢に語らく みやびたる
^{あれも}花と我思ふ 酒に浮かべこそ」

“梅の花が夢で言ったんだよ。みやびな花なんだ、私は。だから、杯に浮かべて飲みなさい” という歌です。この歌がすてきだなと思って、しだれ梅を植えて。もう6、7年目ですが、その下で梅の花を浮かべてお酒を飲むのが夢ですね。

【坂本】 「散りぬともよし」とういのが、中尾さんは大変いいとおっしゃった。

【中尾】 散ってもいいと言っているが本当は散ってほしくないんですね。そういう反語的な言い方で何人も歌っているんです。

【坂本】 この「散りぬともよし」という歌には「^{こた}和ふる歌」があります。

【檀】 「^{つかさ}官にも 許し給へり 今夜のみ
飲まむ酒かも 散りこすなゆめ」

TEIDANROKU

【坂本】 官、つまり公でもお許しだというのは、お酒を飲んで徒党を組むと政権に悪いはかりごとをするからというので、この頃、禁酒令が出ているんです。ただし、親しい者が二、三人で飲むのはいいとされている。和え歌では、「散りぬともよし」に対して、「今晚だけ飲む酒じゃありません。花は散ってくれないほうがいい」と歌ったんです。

中尾さんが選ばれた「散りぬともよし」には、^{かさのさみ}笠沙弥の歌もあります。

【檀】 「青柳 梅との花を 折りかざし
飲みての後は 散りぬともよし」

【坂本】 「散りぬともよし」は、この頃、結びの句としてはやりの言葉でした。今日が満足できたら後はいいという思いです。

◆ 「お開き」の歌

【中尾】 旅人の歌も読んでいただけませんか。

【檀】 「君がため ^か醸みし待ち酒 安の野に
ひとりや飲まむ 友なしにして」

【中尾】 「醸みし」というのは、昔、女性が嚙んで酒を造ったんです。君のためにお酒を造って待っている。そこがとてもうらやましくて。

【坂本】 でも、待っているのは男ですよ（笑）。

【中尾】 えっ、女の人でしょう。

【坂本】 違います。この歌は男の人が男の人を待っているんです。お米を嚙んで、壺みたいな物に吐き出しまして、唾液によって発酵^かするのを待つのが醸み酒です。この「醸む」から「醸す」とな^{かも}って。今も醸造することを「醸す」と言います。

【中尾】 やっぱり女性が嚙んだほうが酒はいいでしょう（笑）。

【坂本】 次は本当に女性が醸して待っている歌です。

【檀】 「味飯を ^{うまいひ}水に醸みなし ^あ我が待ちし
かひはかつてなし ^{ただ}直にしあらねば」

【坂本】 あなたは直接おいででないから、せっかく醸して酒を造って待っているけど、甲斐

がないわと。

【檀】 中尾さんはこういうことがお望みなんですね（笑）。

【中尾】 歌が好きなんです。憶良の歌を詠んでいただけますか。

【檀】 「憶良らは ^{まか}今は罷らむ 子泣くらむ
それその母も ^あ我を待つらむそ」

これも酒の歌ですか。

【中尾】 万葉集の中には、酒の歌が30いくつもありますけど、酒という言葉を使っていない酒の歌がたくさんあります。これも「酒」という言葉はないけど、憶良が酒の場にいることは分かるでしょう。どんちゃん騒いでるけど、家内が待ってて子どもも泣いてるから、そろそろお暇しようかと。

【坂本】 これは「憶良らは」と自分の名前を詠み込んでいますよね。「ら」は親しい者につける接尾語ですから、今で言いかえると「憶良ちゃんは」という表現に等しいんです。憶良はもう70歳ぐらいです。

「酒を飲まぬ憶良と飲む旅人」という対立構造を考えた学者がいたんですが、当時の身分社会で大宰帥（旅人）に、筑前守である憶良が文句を言えるはずがない。この歌は、宴会の終わり頃、そろそろお開きにしようという時に歌ったと考えるほうが分かりやすいのです。



【中尾】 一人お先に失礼、というんじゃないのですか。

【坂本】 そうではないと思われます。「憶良ら」の歌は「酒をは讀むる歌」の直前に置かれています。

【檀】 「酒を讀むる歌」というのは、旅人が作った先ほどの歌「驗なき」から始まる13首ですね。

【坂本】 その直後が沙弥満誓（笠沙弥）の歌です。

【檀】 「世の中を 何に譬^{たと}へむ 朝開^{びら}き
漕^いぎ去にし船の 跡なきごとし」

【坂本】 朝、舟が港から一斉に漕ぎ出していく。世の中は、その漕いで行ってしまった舟の航跡が残らないようなものだ、仏教的な無常観の歌として理解されていますが、「朝開き」がキーワードで、朝になれば宴会をお開きにする。つまり、これをお立ち歌として機能させたんじゃないかと。

【檀】 「酒を讀むる歌」の中にも、「生ける者^{ひと}
遂にも死ぬる ものにあれば

この世なる間は 楽しくをあらな」や

「この世にし 楽しくあらば 来む世には

虫に鳥にも 我^{われ}はなりなむ」など、無常

観が濃く漂うものがありますね。

【中尾】 若山牧水はよく朝まで飲みましたが、この満誓の歌から学んだんじゃないかな。

◆ 酒壺となるが本望

【檀】 中尾さんがお選びの牧水、いい歌ですね。

「白玉の 齒にしみとほる 秋の夜の

酒は静かに 飲むべかりけり」

【中尾】 みんなで騒いで飲まない私は面白くないんですが、牧水のように静かに独りで飲むのが本物かなと。

【檀】 坂本先生が旅人の「酒を讀むる歌」から選ばれた1首もすごい。

「なかなか 人とあらずは 酒壺^{さかつぼ}に
なりにてしかも 酒に染みなむ」

【坂本】 なまじ人間でいるよりは、酒壺になってしまいたい。そうしたら、酒にひたってられるだろうと。

【檀】 そんなにお好きなんですか、お酒？

【坂本】 好きですね。高知県出身ですから(笑)。

【檀】 高知に赴任した人が、お酒をどのくらい召し上がりますかと聞かれたので、「しょうしょう」と答えたら、「2升か!」と喝采されたという話が(笑)。

【坂本】 旅人のこの歌は、遺体が陶土となり酒壺となれば、誠に私の心を得んという鄭泉の言葉を、中国の歴史書「呉志」から引用しています。また、11世紀の中近東の詩集「ルバイヤート」にも、死んだら酒瓶の蓋にと願うものがあります。

【檀】 坂本先生のお好きな歌、次も「酒を讀むる歌」から。

「この世にし 楽しくあらば 来む世には
虫に鳥にも 我^{われ}はなりなむ」

【坂本】 享樂的に聞こえますが、最晩年になり、奥さんに先立たれ、その悲しみの中で生きて、酒を飲む。大変深い感じがしますし、輪廻転生の中で鳥や虫になっても構わないというところがいいのです。

【中尾】 小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）も、虫に刺されてもかわいそうで殺さないんです。やがて生まれ変わったら、これになるかわからないと。同じですね。

【坂本】 同じですよ。

【檀】 私、ラフカディオ・ハーンの妻の役を演じたことがございまして。ヘルンさんのことは割と存じておりますの。心が通じておりましたから(笑)。

【中尾】 小泉セツさんね。知性ある、本当にすばらしい奥さんでした。それを演じられるんだから大変なお方だ。憧れの尊敬です。



TEIDANROKU

【檀】 何をおっしゃっているんだか、よくわからないですけど（笑）。

◆ お酒の味を決めるもの

【檀】 万葉集にお酒の歌がたくさんあるのには驚きますね。先ほどの「来むと言ふも…」を歌った坂上郎女（旅人の妹）もお酒の席に交じっているんですよね。

【坂本】 「酒」という語彙を用いている詠み手は、大伴旅人、家持、そして坂上郎女の3人が多いんです。つまり、大伴家は酒飲みであったと思われます。また、「楽し」という語彙を調べますと、旅人とその周辺に多く出てきます。旅人は、楽しい世界を求めて生きる中で、特にお酒を飲むことを楽しんだのじゃないですかね。

【檀】 心を通わせた人たちと、お酒を飲んで同じ花を眺めるのが楽しかったのかもしれないですね。

【坂本】 ところで、「うまかった」と中尾さんが思われるお酒の場面は。

【中尾】 私は「地酒で乾杯富山推進会議」の会長ですが、酒はみんなうまくて（笑）。ただ、種類や値段よりも、大きな喜びがあったときとか、むしろ環境や条件ですね。私には、ものすごくうきうきしている時は安い酒でもうまいですね。お酒というのはそういうものだという気がします。

【檀】 じゃ、「ひとりや飲まむ 友なしにして」というのを好きな歌にあげていらっしゃいましたが、そういうシチュエーションは実はあまり好きではないと。

【中尾】 そうですね。あんまり独りで飲みたくありません。

【檀】 気心の知れた男友達と飲むのと、憧れの美女と飲むのと、どちらが好きですか？例えば、同日に2人から同じようなお誘いがあったとします。一人は長年の友達、一人はちょっと心ときめく女性。

【中尾】 両方ともいいですよ、それは（笑）。



【坂本】 お答えになっていません（笑）。

【中尾】 長年なら、ちょっと放っておいてもいいからね（笑）。長年の友達は明日また飲めますから。美女と飲むのはいいチャンスですよ（笑）。それは正直に。

【檀】 すばらしい選択ですね。正直でいらっしゃるがよく分かりました（笑）。

【坂本】 もう一つ、梅の花を浮かべると同じで、「春日^{かすが}なる」という歌を選びました。

【檀】 「春日^{かすが}なる 三笠^{みかさ}の山に 月の舟^{いづ}出づ
みやびをの 飲む酒^{さかづき}杯に 影に見えつつ」

杯に月が映るんですね、きれい。

【坂本】 月ごと飲む感じです。梅の花と月は、浮かべて飲むのは少し風情が似ていて、すばらしい。味も変わって感じます。もう一つ、中尾さんがお選びになった歌があります。

【檀】 「居り明^をかしも 今夜^{こよひ}は飲まむ
ほととぎす 明け^{あした}む朝は 鳴き渡らむそ」

それこそ朝まで飲むという歌、すごいですね。

【中尾】 朝までゆっくり飲むのは懂れますね。

【檀】 夜更かししても今夜は飲もう。ホトトギスは、立夏に当たる明日の朝にはきっと鳴き渡るだろうと。

【坂本】 家持はホトトギスが好きで、毎年、初声を聞くのを楽しみにしていました。しかし、奈良の都から越中に来ますと、夏になるのになかなか鳴きません。その初声を待ちながら酒を飲んでいるのです。

そろそろ時間が参りました。コーディネーターが不慣れで、失礼いたしました。

【檀・中尾】 ありがとうございます。

スマートシティ推進・中心商店街活性化の秘訣を探る

～ 第 6 回地域創生委員会 県外先進地視察 ～

地域創生委員会（山野昌道委員長）は、第 6 回委員会として11月17日(火)から18日(水)にかけて、スマートシティ実現に向けた取組を推進している高松市役所と中心商店街の再開発による活性化に取り組んでいる高松丸亀町商店街振興組合を視察し、山野委員長はじめ委員11名が参加した。併せて、地域観光資源の視察として小豆島を訪れ、寒霞溪ロープウェイ、小豆島宝生院、平和の群像を視察した。

(1) 高松市役所

高松市では産学官民の多様な主体との連携や ICT の活用により、地域課題の解決と地域経済の活性化、行政の効率化を図ることを目的に「スマートシティたかまつ」を推進している。

その取組について、高松市総務局情報政策課 ICT 推進室長の金川邦広氏、同室長補佐の平井賢太郎氏より事業概要について説明をいただき、意見交換・質疑応答を行った。

＜高松市総務局情報政策課 ICT 推進室 事業説明要旨＞

- ・ 2016年に G 7 情報通信大臣会合が高松市で開催され、スマートシティに対する機運が高まったことをきっかけに、本市では2017年度よりスマートシティ実現に向けた取組を推進している
- ・ 取組の特徴としては、我が国初の IoT 共通プラットフォーム (FIWARE) を導入していること、産学官民連携の場として「スマートシティたかまつ推進協議会」を設置し事業を実施している
- ・ 当初は防災（河川・護岸の水位情報の取得による早期の災害対策など）、観光（レンタサイクルの動態把握など）の 2 分野だったが、



金川室長（右）、平井室長補佐（左）

現在は福祉、交通安全、オープンデータの分野にも展開している。今後、既存分野の強化や新分野への展開、産学官民連携の充実、市民協働などに取り組んでいきたい

＜主な質疑応答＞

Q 1.「スマートシティたかまつ推進協議会」における「学」や「官」のうち香川県との連携として、どのように取り組んでいるか。

A 1.「学」については、ICT やデータ利活用人材の育成環境の向上につなげることを目的として、香川大学と連携し体制や社会実装などの事業内容について検討を進めている。

香川県との連携は今後進めるべき点の一つである。

Q 2. 協議会参加企業の活動状況はどのようなものか。また、取組の市民への浸透度合いはどのような状況となっているのか。



A 2. 協議会設立当初（2017年 3 月）の参加企業は 7 社だったが現在は93社に増加している。特に積極的に参画いただいている企業が数社あり、事業推進の中枢的役割を担っていただいている。

市民への浸透（理解）は今後の課題である。アプリなど市民が使って楽しいものがあればよいのではと考えている。



Q 3. 今後のさらなる発展に向けて



重要と考えていることは何か。

A 3.現時点では、提供されているデータは行政側が保有しているもののみとなっていることから、民間事業者が保有するデータを提供いただき、行政側保有データと併せて活用することが今後重要になってくると考えている。民間事業者が保有するデータ、特に競争領域にあるデータの提供は困難であると思われるが、この部分が無いと、一連の取組は“行政サービス”の領域を出ないと考えている。民間事業者に、保有データを提供・展開してもよいと思ってもらえる仕組みづくり（データ提供によるインセンティブなど）が必要ではないかと考えている。

（2）高松丸亀町商店街振興組合

高松市中心商業地区に立地する全長約470mの商店街で江戸時代から400年以上の歴史を持つ商店街として地域の商業をリードしてきた。1970～1980年代に郊外での大型ショッピングセンター立地に危機感を抱いた商店街は「人が住み、人が集うまち」を目指し、全国初となる民間主導型の市街地再開発事業として土地の所有権と使用権を分離する手法を導入し、構想から約20年を経た現在も整備を進めている。

高松丸亀町商店街の再開発と活性化に関する取組について、高松丸亀町商店街振興組合理事長の古川康造氏より事業概要について説明をいただき、質疑応答・商店街の視察を行った。

＜高松丸亀町商店街振興組合 事業説明要旨＞

- ・当商店街の取組に関する3つの基礎知識として①商業地の再生計画ではない（商店街に如何に居住者を集積させるかが目標。高松市のコンパクトシティ推進のリーディングプロジェクトと位置づけ）、②商店街地権者は基本的に仲が悪い、③全国でも珍しい、商店街振興組合と自治会は構成員がほぼイコールであること（ドラスティックな計画が実行可能な要因のひとつ）、が挙げられる
- ・当組合のまちづくりの明確な定義として、困っていること、今後困るであろうことを、ビ



古川理事長

ジネスを以って解決する「ソーシャル・ビジネス」の仕組みを導入し30年ほどになる。これは、地権者から少しずつ集めた資金を基に、スケールメリットを生かしたビジネス展開により収益を挙げ、稼いだ分は地権者に配当せずまちに投資するというものである（近年、地価上昇という成果が現れはじめている）

- ・当組合の再開発事業は、全国初の民間主導による事業であり、定期借地権制度（60年間）の導入により「土地の所有と使用の分離」を図るなど前例にこだわらない手法を採用している

＜主な質疑応答＞

Q 1. 収益分配の仕組と特徴はどのようなものか。



A 1. 得られた収益は地権者に平等に分配されるとともに、その配当は劣後性のものとなっている。これ



は、当商店街の地権者は配当よりも、バブル経済崩壊時に負った負債の返済（再開発事業の補償費を原資）の方が得策と判断したことが背景にある。地権者が負債から解放された意味は極めて大きいと考えている。

Q 2. 再開発をはじめとした取組により、隣接している商店街（片原町、兵庫町）へはどれくらいの影響が及んでいるか。

A 2. 最初に実施したA街区の整備後、それぞれ30～40%を占めていた空き店舗がほぼゼロになった。

Q 3. 貴組合で実施しているスキーム（土地の所有と使用の分離など）を、他都市においてそのまま実施した場合、成功するものなのか。

A 3. 基本的には成功すると考えている。ただ、他都市で当組合と同じスキームを導入した事例はまだ存在しないようである。

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）^{ゆかり}所縁の地を訪ねる

～ 第15回文化スポーツ委員会 ～

文化スポーツ委員会（五十嵐博明委員長）は、第15回委員会として11月26日(木)から27日(金)にかけて、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）所縁の地である松江市を視察し、中尾特別顧問、五十嵐委員長はじめ委員ら15名が参加した。

【11月26日(木)】

(1) 小泉八雲記念館

小泉八雲死後の松江では記念館建設の機運が高まり、八雲の教え子らにより組織された(第一次)八雲会らの尽力により1934年、小泉八雲記念館が開館。立地する塩見縄手地区が松江市伝統美観保存区域に指定されたことに伴い、2016年、外観のリニューアル・増築と展示構成の拡充を図った。

小泉八雲の曾孫で同記念館館長の小泉凡氏より「小泉八雲がみた妖怪と感染症」と題し、ミニレクチャーをいただいた。その後、八雲愛用の鞆などの館内展示を随時、解説をいただきながら鑑賞した。

＜小泉氏ミニレクチャー要旨＞

八雲は生涯のうちに何度か伝染病の流行の中にいたことがある。この時に、家族や血縁を越えた救いの手が差し伸べられている様子を見聞きしている。また、八雲自身も35歳の頃にマラリア、38歳の頃に腸チフスに感染し、一時は生死をさまよった



経験がある。この時、友人による献身的看病により回復し「わたしは心身ともに健康を回復した。これなくしては文学作品はただの一篇たりとも書きあげられない」という感謝の手紙を記している。

これらの体験を基に、底抜けともいえる勇氣と優しさを発揮する人間の姿と行動を作品の中に描いている（例:「流行病の兆し」1873年、「天然痘」1888年など）。

松江から熊本へ移る直前、市内数か所でコレラが発生し、その中に勤務する師範学校も含まれていた。学校内でクラスターが発生してもパニックを起こさず礼儀正しく振舞う生徒達や学校に留まった校長の勇氣と優しさに触れた八雲は、学校と生徒との強い信頼の絆を感じるとともに、汚染された河川環境への懸念から生徒たちに埠頭へ自身の離松を見送りに来ないよう伝えた（しかし、200人を超える生徒が見送りに来た）。

これらを通じて八雲は、自身が愛した妖怪・怪談と感染症は、目に見えない社会不安と密接な関係があると考え、これは「目に見えないものへの不安や恐怖の歴史」といえるかもしれない。同時に八雲は、人間の力の限界や自然・異界への畏怖を学べること、負の歴史から学ぶべきことは多いと考えていたようである。



小泉館長

自身の感染経験から、八雲は衛生に気を配っていたようである。外から帰った際や、ペンを握って仕事をした後には必ず手洗い・うがいをしていたようでその際に使用した水壺が残っている。

また、衛生法の考え方・理念は、ある意味で残酷なもの（一見残酷とも見える、の意）でなければ意味がない旨の記述が著書（「コレラ流行期」1896年）にある。祖父（小泉一雄）もよく、手洗い・うがいを徹底するように八雲から言われていたようであり、この点は現代のコロナ禍の時代に通じる感覚を持っていたと思われる。

(2) 小泉八雲旧居

1890年（明治23年）に来日した小泉八雲は、1904年（明治37年）に亡くなるまでの14年間で



日本で過ごし、そのうち約1年3か月を松江で暮らし、約5か月間をこの家で過ごした。八雲が住んでいた当時のままで保存されているのは松江の旧居のみである。

小泉氏に解説をいただきながら、八雲がこよなく愛し、八雲の著者「知られぬ日本の面影」の舞台となった庭などを視察した。

【11月27日(金)】

(3) 小泉氏と八雲所縁の地を

小泉氏に“八雲目線”からの解説をいただきながら八雲所縁の地を視察した。

※以下、囲みは小泉氏による解説

①松江城

松江開府祖である堀尾吉晴により1607年（慶長12年）から5年の歳月をかけて築城され、堀尾



3代、京極1代、松平10代の居城となった。質実剛健な構えと実戦本位の設計が特徴で、現存する天守として2015年（平成27年）に国宝に指定されている。

②城山稲荷神社

松平直政（徳川家康（松平元康）の孫）が1638年（寛永15年）に松江に入国した際、藩内の平穏を祈願して創建された。のちに築城時からあった若宮八幡宮を合祀し現在に至る。



八雲は（松江）旧居に住むようになってから毎日、この神社の前を通過して職場である師範学校へ通い、この神社へも頻りに立ち寄っていた。当時二千以上を数えた狐の石像のうち、門前にあった2匹の石狐像、特に完璧な状態にある左側ではなく、耳が欠け風化が進んでいる右側の石狐像を愛好していた。完璧なものではなく、地味で影のあるものを好んでいたようである。

③月照寺

松江藩主 松平直政が、もともと立地していた洞雲寺という禅林を、生母月照院の



霊碑を安置するため改修し蒙光山月照寺として改称復興した。初代直政から九代斉斎まで、歴代の藩主の墓所がある。

月照寺で八雲が最も興味を持ったものも、やはり怪談であった。境内に建立されている大きな亀の石碑（寿蔵碑）があり、夜中にこの亀が暴れまわるといふ伝説があった。境内にうっそうと茂った木々も八雲は大変好み、度々訪れていた。木も好きだったようである。

④普門院

堀尾吉晴による松江開府時に、松江城鎮護の祈願所として吉晴により開創された



寺院。境内にある観月庵は細川三斎忠興を流祖とする茶室である。

普門院の幽玄な風情は八雲も魅了され、当時の住職を自宅に招待し怪談・普門院の由来を語ってもらっている。八雲の妻 小泉セツは不昧流（7代藩主松平不昧公による流派）の茶道を習っていた。この流派は質素かつ他の流派の良いところを真似る精神をもつ流派であった。セツは茶道具をいくつか持っていたが、八雲はあまりお茶について作品には触れていない。ただ、煎茶のことを「一度飲むと西洋のお茶など見るのもいやになる。」と記述している。

With/After コロナ時代の人財創出に向けて

— 第6回人財創出委員会 —

11月6日(金)、第6回人財創出委員会(中澤宏委員長)が富山第一ホテルで開催され、18名の委員が出席した。

冒頭中澤委員長から挨拶があり、続いて提言に向けた方針案について説明した。経済界が県内の人財創出事業の結節点となることや、自治体・他同友会との協働プラン作成の構想、提言発表後に提言内容の実装期間として委員会を延長すること等が示され、出席委員からの了承を得た。

続いて、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 参事官 松田昇剛氏、富山県商工労働部 理事 三牧純一郎氏、エムシードウコー株式会社 セールスエグゼクティブ 澤田祐介氏の三者を講師に招き、講演会を開催した。

松田氏からは「With/After コロナ時代におけるDX、Society5.0、地方創生テレワークの推進・普及に向けて」と題し、国の政策やその背景、今後の方向性について体系的に語られた。その中で、地方創生や地方創生テレワークの政策意義についても示され、参加者は理解を深めた。



松田講師

三牧氏は「beyond コロナに向けて」と題し、コロナ危機が経済に与えた影響の分析や、富山県内での取組みについて解説し、県内企業が目指すべき方向性について示唆した。

澤田氏からは「お試し移住計画事業構想～富山での地方創生テレワークの推進・普及に向けて」と題し、地方創生の手法としての地方創生テレワークについて、実践を想定したレクチャーがなされた。

全国各地の動向を取り上げつつ、県内では足並みがそろわず効果的に事業を行えていない点などを鋭く指摘。まずは「お試し移住」の環境をつくることを提案し、そこに経済界(企業)がどのように関わる可能性があるのか、具体例を交えて解説した。

各講師それぞれの視座からのレクチャーを受け、参加した委員にとってコロナ時代の人財創出や地方創生テレワークについて視野を広げ、考えを深める貴重な機会となった。



三牧講師



澤田講師

DXの時流を学び、コロナ禍の企業経営を考える

— 第2回企業経営委員会 —

第2回企業経営委員会(伊勢徹委員長)が12月16日(水)、オークスカナルパーク富山で開催され、32名の委員が参加した。

はじめに委員長から挨拶があった後、株式会社日立製作所 ITデジタル統括本部DX戦略本部情報戦略推進部 部長の富田幸宏氏を講師に招き、「DXの時流と日立製作所の取組み」と題し講演会を開催した。講演会は、会場以外でも14名の委員がZoomで視聴した。

富田氏はまずDXの概念やDXがもたらす変革についてあらためて解説したうえで、日立製作所における具体的な取組みについて説明した。コロナ禍における非常に重要なテーマの講義に、参加した委員は自社での取組みの参考とすべく熱心に耳を傾けていた。講演の最後に



伊勢委員長

は、日立グループで実践しているコロナ対応にも触れ、引き続き行われたグループ討議へも大きなヒントを残した。

グループ討議では「With/After コロナにおける企業経営について」をテーマに、グルー

プに分かれて意見交換を実施した。講師も各グループの議論の様子を見回りながら、大変活発な議論が行われた。グループ討議後には、グループの代表者が登壇して発表を実施。各代表者の発表からは、様々な業種の経営者が意見を交えることで、大変有意義な議論と新たな発見があったことが伺われた。講演で得た学びや刺激をグループ討議の中で早速アウトプットし合うことで、大きな収穫が得られた委員会となった。



富田講師

教育提言をブラッシュアップ

— 第8回教育問題委員会 —

第8回教育問題委員会（伊東潤一郎委員長）が12月22日（火）、ホテルグランテラス富山で開催され、委員17名が参加した。

冒頭、伊東委員長が「今年度はコロナ禍で学校や教師を対象とした活動が思うように実施できなかったが、提言書はより良いものとなるよう、委員の皆さんのご意見を伺いながらまとめたい」と挨拶し、続けて、大橋担当役員が「第10次、11次委員会の4か年の集大成として、しっかりとした提言を発信していきたい」と挨拶した。



伊東委員長

会議では、今年度の活動状況を報告した後、前回委員会で出された意見を踏まえて修正した提言案について説明が行われた。

提言のとりまとめにあたって伊東委員長は、「子どもたちの『生きる力』を育むために、『教師・学校』『子ども』『親・家庭』の3つの柱に加え、コロナで顕在化した『ICT』の問題についても取り組んでいくこととしたい」と提言の方向性を説明した。

委員からは、「『生きる力』とは何なのか、分かりやすい説明が必要」「歴史、伝統、文化など日本の良さも盛り込むべき」「コロナ禍では、ICTを活用した教育環境整備の必要性だけでなく、学校の役割や対面授業の重要性も改めて認識された」「同友会として取り組むことと他の団体等に期待することの区分が明確になるといい」「具体的に取り組む内容を例示するなど、一歩先の未来を見据えた提言とすべき」など活発な議論がなされ、最終とりまとめに向けて、提言内容をさらに磨き上げていくことを確認し、会を終了した。

「失敗を恐れてはいけない」

寺下利宏氏・富山県中堅教諭等資質向上研修で講演

令和2年11月10日（火）、寺下利宏氏（㈱ソシオ代表取締役）が富山県中堅教諭等資質向上研修において、教員23名を対象に「生存率2%の事業運営」と題して講演を行った。

寺下代表はまず、当会教育問題委員会の活動に触れ、急激に変化する時代の中で、次代を担う子どもたちは、「自ら課題を発見し解決する力」「コミュニケーション力」「リーダーシップ」「向上心」など人生を自ら切り拓く力を備えた人間になることが重要であり、コロナ禍の中で、こういった力がますます必要になるのではないかと述べた。

次に、「ハウレンソウのおひたし」を紹介し、部下からの「報告・連絡・相談」に対し、上司は「お（怒らない）・ひ（否定しない）・た（助ける）・し（指示する）」で返すことでコミュニケーションが円滑になるとし、リモートでのやり取りなど、直接伝えることが難しい時代では、なおさら意識することが大事であると説いた。

そして、企業の存続率は、1年で60%、3年

後30%、10年後5%、30年後2%であることを説明。浅野総一郎氏の「九転十起」や柳井正氏の「一移そう」と寺下代表

勝九敗」を紹介しながら、自社の創業の経緯、波乱万丈だったという30年間を振り返り、失敗を重ねながら今の事業に辿り着いたこと、時代の変化やニーズを捉えなければ長続きしないこと、将来をしっかりと見据えて行動しなければならないこと、さらにこれからは、持続可能な企業を考えていくことが必要であることなどを話した。

最後に、子どもたちの未来のために、最前線で頑張っている先生方には広い視野に立っていただきたいとし、「我々経済人としても子どもたちの一番身近にいる先生方をしっかりとサポートし、社会全体で子どもたちの学びを後押ししていきたい」と述べ、講演を締めくくった。



働く意味を考える機会に

— 課外授業講師派遣 —

第6回 富山市立岩瀬中学校

令和2年11月2日(月)、牧田和樹氏(㈱牧田組取締役社長)が富山市立岩瀬中学校において、全学年301名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、AIはデータから予測するが、人間はそれ以外の要素も踏まえて判断できることを示し、「AIは確率論であり万能ではない。データから類推し最適を導き出すことはできても、それが必ずしも正しいとは限らない」「世の中のほとんどの問題は正解のない問題であり、AIでは解決することができない」と説明した。

そして、正解のない問題を解くには、問題の本質を見極めることが必要である。なぜ問題となっているのかを理解するためには、お互いにその理由を話し合える関係を築くことが不可欠であり、相手に対する思いやりの気持ちをもつことが大切であると説いた。

さらに、相手と対話してよりよい解決策を見つけ出すには、知識が必要であり、豊富な知識を組み合わせることで創造力が生まれるとしたうえで、「創造力によって奇跡は起きる。常識では考えられないことを生み出せるのは人間だけであり、AIでは奇跡は起こせない」と強調した。

最後に、今、学校で学んでいることはすべて知識となり、将来、正解がない問題を解くときに役に立つ。勉強も部活動も無駄ではない、意味のあること。「よりよく生きるために、充実した学校生活を送ってほしい」と激励して授業を締めくくった。



「たくさんの知識と経験を積み重ねよう」と牧田社長

第7回 滑川市立滑川中学校

令和2年11月4日(水)、福崎秀樹氏(㈱フクール代表取締役)が滑川市立滑川中学校において、2学年176名を前に「AI時代を生き抜く!」をテーマに課外授業を行った。

福崎代表ははじめに、これから生きていく時代は「魔法の時代」である。科学技術の指数関数的な進化により、今ある仕事の約半分はAIで代替可能と言われているが、職業がなくなるという話は本質的には意味がなく、一人一人が人から求められる存在であり続けられたいとしたうえで、「新しいものを生み出したり、チャレンジすることは人間にしかできない。AIでは人の心を動かすことはできない」と語った。

続けて、考え次第で人生は変えることができると説明。「自由」とは「自らをもって由となす」であり、自分の生きたい人生を自分が選ぶことができる。人生は自在であり、何をして

もいい。「未来は自分の手で引き寄せることができる」と強調した。

そして、これからのAI時代を生きていくには、普遍的な人間としての強さが大切であり、「自分で変化を生み出す」「問題を探す」「自らの価値観に従う」といった力が必要になると説いた。

最後に、好きな言葉「明德を明らかにする」を紹介し、自己の最善を尽くし、本気で取り組むことで、未来は引き寄せられる。「未来を不安がる必要はないし、過去に捉われる必要もない。今この瞬間を大切に生きてほしい」と呼びかけ授業を締めくくった。



「未来は君たちの手の中にある」と福崎代表

第8回 氷見市立北部中学校

令和2年11月9日(月)、高瀬幸忠氏(株)スカイインテック専務取締役)が氷見市立北部中学校において、2学年108名を前に「社会の一員として働くこと」をテーマに課外授業を行った。

高瀬専務ははじめに、AIやロボットの活用により、いろいろな仕事に変化、発展し、新しい仕事に生まれ変わっていく。「今あるものが必ずしも最善だとは思わず、積極的に改善や改革を行い、より優れた新しいものに変えていくことが必要である」と述べた。

続けて、ドイツでは10歳で将来の進路を選択することを紹介し、自身は10歳の時に両親と米国に転居する話を断り、富山で祖父母と一緒に暮らす選択をしたことが得難い経験につながったと振り返った。そして、これから様々な局面で「未知の選択」を行うことになるが、人生をより良く生きるためには、選択の質を高めることが大切であり、「自分の潜在能力を解き放ち、

いろいろな経験をし、良い選択をして、いい人生を創り上げていってほしい」と語った。

さらに、働くということは、必要とされること。自分の価値を世に問う姿勢を持ち続けることが大切であり、働くことを通して、感動を積み重ねて豊かな人間になっていくことが重要であると説いた。

最後に、「Be daring, Be first, Be different (勇気をもって、誰よりも先に、人と違ったことをしよう)」という精神で、新しい世の中を創っていく主役になってほしいと述べ、全員で「Just try! (とにかくやってみよう)」と復唱して授業を締めくくった。



「世界を“あつ”と言わせよう」と高瀬専務

第9回 高岡市立志貴野中学校

令和2年11月11日(水)、市森友明氏(株)新日本コンサルタント取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年1組40名を前に「学習の目的を知って努力を楽しみましょう」をテーマに課外授業を行った。

市森社長ははじめに、「勉強はできるからいい、できないから悪いというものではない。勉強は最終的には将来の生き方や職業に関わってくる」とし、職業を实践するうえで必要な学力や知識を獲得することが学習の目的の一つであると説明した。

また、大学受験や就職試験など、次の段階に進むためにも学習は必要となることから、「職業までのプロセスをイメージすることが大切」としたうえで、「中学生で将来をイメージすることは難しいかもしれないが、学習することでイメージできるようになる。学習は将来の職業選択の幅を広げることになる」と説いた。

そして、仕事にも学習にも努力は必要だが、

努力した時間と成果は比例せず、努力してもなかなか成果が出ないことがある。しかし、停滞期の「成長の壁」で決して諦めず、さらに努力を続けることで、「ブレイクスルー」する日が必ずやって来ると強調した。

最後に、松岡修造氏の言葉「100回叩けば突破できる壁があっても、99回で諦めてしまう人がいる。その人は今までの努力やかけてきた時間が無駄に終わってしまう」を紹介し、「あと1回の努力で成果が出るかもしれない。努力が成長に結びつくときが必ず来ると信じて、諦めずに努力を続けてほしい」と述べ、授業を締めくくった。



「学習と職業の関係を意識しよう」と市森社長

令和2年11月11日(水)、伊東潤一郎氏(アイティオ(株)取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年2組34名を前に「働くことと幸せに生きること」をテーマに課外授業を行った。

伊東社長ははじめに、大人が「勉強しなさい」と言うのは、大人になってから子どもの頃に勉強しなかったことを後悔しているからであり、「将来、自分がやりたいと思ったことができるように、今からいろいろなことを勉強しておくことが大切。それが将来の選択肢を増やすことになる」と語った。

次に、ボルトとナットを用いたコマづくりの体験を通して、ものづくりの面白さを伝えたいと、「ものづくりは自分が楽しみ、相手も楽しませることが出来る。会社は作ったもので皆を幸せにできる。仕事をするとは人を幸せにすることである」と説いた。さらに、1トンの鉄は10万円だが、軽自動車は1～2トンの重量で

約200万円となり、鉄の10倍以上の価格で販売される。ものづくりは新たな価値を生み出すことだと説明した。

最後に、社会に出ると、「 $1 + 1 = \square$ 」という正解がある問題ではなく、「 $1 + \square = \triangle$ 」という一つだけではない答えを追求していくことが必要になるとし、「人生にはたくさんの道がある。自分が進む道の先がどうなっているかを知るためには知識が必要であり、いろいろなことに興味を持ち、様々な経験をし、そこで得た気付きを大切にしてほしい」と強調して授業を締めくくった。



「世の中の役に立ちたいと思うことが大切」と伊東社長

令和2年11月11日(水)、上田信和氏(砺波工業㈱取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年3組36名を前に「将来の夢は？」をテーマに課外授業を行った。

上田社長ははじめに、「今の子どもたちの65%がまだ存在していない職業につくだろう」と予想されていることを紹介し、「今なりたい職業がなくても、これから新たな職業が次々と生まれてくる。いろいろな経験をする中で夢はどんどん変わっていいが、早く夢という目標を決めて、その目標に向かっていくことが自分のモチベーションアップにつながる」と説いた。

さらに、テクノロジーの進化により様々な情報ツールが加速度的に普及していることを説明し、時代の流れがどんどん速くなり、社会が目まぐるしく変化している中で、「時代の変化にどう対応していくかが大切である」と語った。

続けて、仕事をするうえでは、「社会人基礎力」

と言われる3つの能力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が重要であるとし、これらの力の基礎となる人間性や基本的な生活習慣、基礎学力、専門知識を身につけるため、今やるべきことに一生懸命取り組んでほしいと述べた。

最後に、「人生にはたくさんの選択肢があるが、自分で選んだ以上精一杯生きることが大切。自分の人生の中では誰もが主人公であり、夢・目標に向かってサクセスストーリーを描いてほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



「夢を持ち、夢に向かって努力しよう」と上田社長

令和2年11月11日(水)、戸塚健氏(富士通㈱富山支店長)が高岡市立志貴野中学校において、2年4組37名を前に「自分の弱さは武器になる」をテーマに課外授業を行った。

戸塚支店長ははじめに、大学時代に所属していた応援団での経験を振り返り、厳しい練習で極限状態に追い込まれた中で自分の弱さを知ったこと、そして、自分の弱さを認め、向き合うことで自分自身を成長させることができたとし、「自分の弱さを知っていることは自分の強みになる」と説いた。

続けて、「恥ずかしくてできなかったこと、やらずに後悔したこと」がないかを生徒に問いかけ、「自分が弱くてできなかったことも自分が素直に受け止めればいい。次に挑戦することが大事」と強調した。また、「自分ができないことを人はやっているかもしれない」という視点で見ると、人の見方も変わると語った。

さらに、「一つのことを一生懸命取り組んで

きた人は柔軟性がある」としたうえで、今はまだ将来の目標が見つかっていなくても、何か打ち込めるものがいつか必ず見つかる。そのタイミングを逃さないでほしいと述べた。

最後に、これまで「自分の可能性は無量大」と言われた仕事をこなせばよかったが、今の社会では自ら挑戦することが求められており、主体的に物事を考えていかないと自分の可能性を広げることはできない。「自分で自分を磨き、自分の弱さを武器に変え、いろいろな可能性に挑戦してほしい」と激励して授業を締めくくった。



「自分の可能性は無量大」と戸塚支店長

令和2年11月11日(水)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ㈱代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年5組35名を前に「生きる力」をテーマに課外授業を行った。

尾山代表ははじめに、これからは、ピラミッド型の「しがらみ」の社会から、「個」が「つながる」社会に変容していくとし、嫌な組織には所属しなくていいし、つながりたい人と自由につながることができるが、誰も責任を取ってくれない。自己責任の時代となり、個が成熟していくことが必要になると語った。

次に、伝言ゲームを行い、順番に情報を伝えていく中で少しずつ言葉が変化し、最終的には元とは全く異なる内容になってしまうことを示し、情報は取り扱いが大事であり、自分の目で見、耳で聞いたものを信じることで、「誰が」話しているかではなく「何を」話しているかを読み解く力が大切であると説いた。

そして、夢を叶えるためには、実際に挑戦し

最後までやり続けることが大事であり、挑戦すると失敗し挫折することもあるが、失敗や挫折は必ず糧になり、次のステップに繋がっていく。「やらずに後悔するより、やって反省する人生を選んでほしい」と強調した。

最後に、石田三成の「三献茶」の逸話に触れ、「仕事に貴賤はない。どんな仕事にも誠実に取り組んでほしい」と述べたうえで、「一人一人に価値がある。信念をもって、自分にしか成し得ないことに挑戦してほしい」と激励して授業を締めくくった。



「難が無いのは“無難”、難が有る人生は“有難い”」と尾山代表

第10回 富山市立山室中学校

令和2年11月13日(金)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山市立山室中学校において、2学年197名を前に「働くということ、生きるということ。～目標を達成する習慣をつけよう～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、言葉の不思議さと大切さに触れ、「私の夢は〇〇になることです」のように、自分の目標を具体的に決めること」「それを言葉に出して発信すること」が重要であり、「明確に決めて取り組むのとそうでないのでは成果が大きく異なる」と強調した。

次に、この先の人生は大小さまざまな選択の連続であり、その都度最善の選択をしながら自己実現を図り幸せを追求していくものであるとし、これを実現するには気付かなかったことに気付くなど積極的に自身を成長させること、今の自分を卑下せず今後の可能性を信じるこ

大切であると説いた。

さらに、「目的は追求するもの」「目標は達成するもの」との違いを述べたうえで、人生の目的を早く見つけた方が目標の設定がしやすいこと、全ての結果(Have)は、ある行動(Do)によってもたらされ、その行動はあり方(Be)の影響を強く受けるとし、これらのバランスを取ることが大事であると語った。

最後に、「何でも最初からできるものではない。少しずつできるようになるまで、知識を蓄えとともに経験を積み重ねられるよう、一生懸命に取り組んでほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



「絶対に目標を達成する」と固く誓うことが重要」と遊道社長

第11回 富山市立北部中学校

令和2年12月2日(水)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長)が富山市立北部中学校において、1・2学年324名を前に「自分の夢の見つけ方」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに、「なぜ働かなければならないのか」を生徒に問いかけ、「社会は皆で作るものであり、働くということは社会を作っていく一員になることである」と説いた。

そして、「将来、何になるのか?」とこれから真剣に考える時がくるが、自分のやりたいことは簡単には分からないし、夢も簡単には決まらない。それでも何かを見つけないかと思うなら、「考えるだけではなく行動し続けることが必要であり、一日一日を一生懸命に生きるしかない」と強調した。

さらに、努力しても成功するとは限らないが、成功するには努力が必要であるとしたうえで、

苦勞のないところにやりがいはなく、辛く厳しい体験が感動に繋がっている。「苦勞や努力こそがやりがいであり感動そのものである」と語った。

最後に、夢を見つけるためには、「知識を得る」「大人に聞く」「やってみる」

「目の前のことに真剣に取り組む」ことが大切であると、「人生は選択の連続だが、選択に迷った時、どちらが正しかったかは一生分らない。選んだ方が正解になるよう、その後の人生を作っていくことが大事であり、将来のために充実した一日一日を積み重ねてほしい」と述べ、授業を締めくくった。



「夢はどんどん変わっていい」と山野社長

第12回 富山高等支援学校

令和2年12月18日(金)、森藤正浩氏(正栄産業株代表取締役)が富山県立富山高等支援学校において、全学年51名を前に「よりよく生きる働くとは」をテーマに課外授業を行った。

森藤代表ははじめに、「仕事の目的はお客様に喜ばれることであり、人生の目的は誰かに喜ばれること」としたうえで、人生の3分の1の時間を占める仕事を、お金を得る手段として嫌々やるのはもったいない。「仕事には面白い仕事もつまらない仕事もない。仕事を面白くする考え方とつまらなくする考え方があるだけだ」と語った。

続けて、今の自分が存在するのは、両親や祖父母が命のバトンを途切れることなくつないで来てくれたからであり、今ここにいることへの感謝を忘れずに、人に喜んでもらえるよう、人の為に尽くすことが大切であると説いた。

そして、稲盛和夫氏の人生の方程式「人生の

結果 = 能力 × 意欲 × 考え方」を紹介し、能力や意欲とともに、人としての正しい考え方をもつことが何よりも大切であるとした。さらに、毎日ほんの少しの努力でも積み重ねることで確実に成長につながるとし、「努力は自分を裏切らない」と強調した。

最後に、「今日という1日は人生の中で二度とない。365分の1日で生きるのではなく、1分の1日を大切にしてほしい」とし、「皆が何にでもなれるし、どんなことでも出来る。人生の可能性は無限に広がっており、自分の力を信じて、“今から、ここから、自分から”始めてほしい」と激励して授業を締めくくった。



「誕生日は両親に感謝する日にしてほしい」と森藤代表



人のつながり・吉田知事のことなど

特別顧問 中 尾 哲 雄

20年前、私の提案で始めたこのリレーエッセイ、第1回を書いた。そして、100回目を書かせていただくことに感激している。

昭和31年（1956）、1浪して富山大学経済学部に入ったものの、肺結核を患っていた私は医師の注意に従って半年は授業に出ないで寮の部屋で横になって過ごした。

校舎も寮も岩瀬の回船問屋、馬場はるさんが旧制富山高等学校創立にあたって寄付されたものであった。（今は蓮町の馬場記念公園）

寮の部屋の柱には多くの落書きがあった。旧制高校、新制大学の先輩たちが書いていったものである。ちゃんとサインもしてあった。私は先輩たちの落書きについての感想や質問などを書き、同窓会名簿をみて手紙を出したがついでに自分の近況、心境なども書いたので激励のお返事をたくさんいただいた。

農協の会長だった吉田実先輩からも返事をいただいた。氏はその9月、自民党公認候補に勝って民間人として初めて県知事になられた。病いが回復して2度、知事にお会いし碁を打ったこともあった。私の卒業式の日、桜木町の「中村」という天ぷら屋さんに招いて下さった。県知事が一学生を、信じられないことであった。

氏の著書、「野に山に海に」は県のベストセラーになったが、ギリシャの政治家ソロモンの言葉、「ビジョンなきところ民亡ぶ」をよく引用された。また、「百姓を捨て、町に出てきたが君の心の拠り所は『農』にあり、精神の居場所はあるさとにあることを忘れるな」、「農が衰退したとき国は亡びる」とも言っておられた。その時から「ふるさととは心の根っこ」を座右の

銘としている。氏との年齢差は26歳だったが、その後親しくおつき合いをいただき思い出も多い。

不二越創業の井村荒喜氏、インテック初代社長をお願いした北陸電力副社長の西泰蔵氏、金岡幸二氏、日本海ガス新田嗣治朗氏など何人もの経済人を証券会社に勤めていた私に顧客として吉田さんが紹介して下さいました。

そして井村さんが会頭を務める富山商工会議所に転職、不二越からも給料をいただいてインテック設立の準備も手伝った。

西、井村の両氏は九州出身、吉田知事は九州大学卒ということもあって廉太郎会（荒城の月と滝廉太郎と富山のことがご存知ですね）が結成され、九州と関係のない私が事務を担当した。その時は数人だったが今、富山九州会は200名を超えているという。

インテックは早くから全国展開をしていたが、その際、寮の落書きの先輩たちが各地で大きな力になって下さった。

国際化、学際化、業際化も重要だが私は世代際化を提唱したい。若い人々が年齢を越えて40代、50代、60代の先輩方と交わっていく、世代際化をもっともっと進めていただきたいのである。

数年前、青冥寮跡地に富山北部児童館が建て替えられたがその費用を寄付させていただいた。

多くの方々とつながり、そのきっかけ、長く生きてきた私にはあまりにも多い。幸せであった。スマホの時代、大丈夫だろうか。

リレーエッセイ200号、私に書かせていただけてませんか。

（ 次号は(株)富山銀行 取締役頭取の
中 沖 雄 様です。 ）

活動報告

11月1日～12月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
11月8日(日) 17:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	11月幹事会・会員定例会（文化スポーツ委員会主管）・懇親会 鼎談：「檀ふみさんと語るお酒の万葉歌」 女優・エッセイスト 檀 ふみ 氏 高岡市万葉歴史館 館長 坂本 信幸 氏 当会特別顧問 中尾 哲雄 氏	約90名
12月8日(火) 18:00～19:50 ANAクラウンプラザ ホテル富山	年末懇親会	約150名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
11月2日(月) 11:30～13:00 事務局会議室	企業経営委員会 第3回正副委員長会議	・ごきげんよう職場訪問について ・次回委員会について ・次回経営道場について 他	7名
11月6日(金) 17:00～20:10 富山第一ホテル	第6回人財創出委員会	講演会 ・講師：内閣官房まち・ひと・しごと 創生本部事務局 参事官 松田 昇剛 氏 演題：「With/After コロナ時代におけるDX、Society5.0、地方創生テレワークの推進・普及に向けて」 ・講師：富山県商工労働部 理事 三牧 純一郎 氏 演題：「beyond コロナに向けて」 ・講師：エムシードゥコー(株)富山営業所 セールスエグゼクティブ 澤田 祐介 氏 演題：「お試し移住計画 事業構想～富山での地方創生テレワークの推進・普及に向けて」	18名
11月10日(火) 11:00～13:00 事務局会議室	教育問題委員会 第10回正副委員長会議	・「海外教育事情視察」参加教員アンケートの結果について ・教育に関する提言案について	9名
11月11日(水) 11:30～13:30 事務局会議室	地域創生委員会 第7回正副委員長会議	・第5回委員会フィールドワークについて ・県外視察について	8名
11月17日(火)～18日(水) 香川県高松市	第6回地域創生委員会	県外視察 高松市役所・高松丸亀町商店街振興組合他	11名
11月26日(木)～27日(金) 鳥根県松江市	第15回文化スポーツ委員会	県外視察 小泉八雲記念館・小泉八雲旧居他	15名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
12月8日(火) 17:20～17:50 ANA クラウンプラザ ホテル富山	企画総務委員会	新会員歓迎オリエンテーション	49名
12月15日(火) 15:00～19:30 事務局会議室他	地域創生委員会 第8回正副委員長会議	・提言策定に向けた意見聴取 (富山県経営管理部情報政策課) ・県外視察報告 ・提言の内容、スケジュールについて ・フィールドワーク「大人の遠足」 発信について	7名
12月16日(水) 17:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	第2回企業経営委員会	・講演会 (株)日立製作所 富田 幸宏 氏 「DXの時流と日立製作所の取組み」 ・With/After コロナにおける企業 経営について	46名
12月22日(火) 17:00～20:10 ホテルグランテラス 富山	第8回教育問題委員会	・今年度の活動について ・教育に関する提言案について	17名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
11月2日(月)	富山市立岩瀬中学校	全学年 301名	牧田 和樹 氏 「よりよく生きる」
11月4日(水)	滑川市立滑川中学校	2 学年 176名	福崎 秀樹 氏 「A I 時代を生き抜く！」
11月9日(月)	氷見市立北部中学校	2 学年 108名	高瀬 幸忠 氏 「社会の一員として働くこと」
11月11日(水)	高岡市立志貴野中学校	2 学年 182名	市森 友明 氏 「学習の目的を知って努力を楽しく しよう」
			伊東 潤一郎 氏 「働くことと幸せに生きること」
			上田 信和 氏 「将来の夢は？」
			尾山 謙二郎 氏 「生きる力」
			戸塚 健 氏 「自分の弱さは武器になる」
11月13日(金)	富山市立山室中学校	2 学年 197名	遊道 義則 氏 「働くということ、生きるということ。 ～目標を達成する習慣をつけよう～」
12月2日(水)	富山市立北部中学校	1・2 学年 324名	山野 昌道 氏 「自分の夢の見つけ方」
12月18日(金)	富山県立富山高等支援 学校	全学年 51名	森藤 正浩 氏 「よりよく生きる 働くとは」

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月4日(水)	富山県中山間地域創生総合戦略検討会	富山県民会館	麦野代表幹事
11月5日(木)	令和2年度「とやま地産地消県民会議」	富山県民会館	塩井代表幹事
11月10日(火)	富山県中堅教諭等資質向上研修 「社会体験研修」(講師)	富山県総合教育センター	寺下幹事
11月12日(木)	第2回あいの風とやま鉄道 新経営計画検討 ワーキンググループ	富山県民会館	有藤事務局長
11月13日(金)	富山県農林漁業・農山漁村6次産業化 推進協議会	富山県農協会館	有藤事務局長
11月18日(水)	第29回暴力追放富山県民大会	アイザック小杉 文化ホール ラポール	東澤幹事
11月18日(水)	令和2年度女性の活躍推進委員会	Web会議「Zoom」 (オンライン開催)	羽根常任幹事
11月27日(金)	(一社)日本経済団体連合会との 「第47回北陸地方経済懇談会」	A N Aクラウンプ ラザホテル富山	大蔵事務局次長
12月3日(木)	とやま学校多忙化解消推進委員会	富山県民会館	伊東教育問題 委員長
12月7日(月)	令和2年度第1回とやま県民活躍・働き方 改革推進会議	富山県庁	麦野代表幹事
12月11日(金)	あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会	富山県民会館	有藤事務局長
12月14日(月)	第35回富山家庭裁判所委員会	富山地方・家庭 裁判所	有藤事務局長
12月15日(火)	T-Messe2021富山県ものづくり総合見本市 第1回運営委員会	富山県民会館	有藤事務局長
12月18日(金)	第3回富山県ひとり親家庭等自立促進計画 検討委員会	富山県民会館	伊東教育問題 委員長
12月22日(火)	第6回富山県健康寿命日本一推進会議	富山県民会館	久郷常任幹事

会 員 の 入 退 会

(11月幹事会)

1. 最近思うこと

(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)

2. 生活信条(座右の銘等)

3. 趣味

入 会



もり かず まさ
森 上 和 昌

積水ハウス(株)

富山営業所長

(紹介者：中尾哲雄氏
石倉 央氏)

1. コロナウイルスの感染拡大が止まりませんが、辛い時期を耐え抜けば幸せな時期は必ずくると信じております。地域に貢献し、皆様に愛される事業所を目指して参ります。
2. 「人生は心一つの置きどころ」この時期、特に必要だと考えております。
3. 小旅行、ドライブ、つり

交 代



しば そう たらう
芝 聡 太 郎

SMBC 日興証券(株)

富山支店長

(前：西坂正行氏)

1. コロナ禍の世界は歴史的な転換点を迎えていると感じます。価値創造のチャンスと捉え、変化を恐れずに楽しむことが大切だと考えます。
2. 笑門来福
3. ゴルフ

交 代



むら かみ かず ひろ
村 上 一 浩

(株)ほくつう

執行役員富山支社長

(前：田中由紀夫氏)

1. 時代の移り変わるスピードや進化が目まぐるしく早い今日において、さらにデジタル化が推進されていますので、日本のローカル社会も見直されると良いと考えます。
2. 「万里一空」の精神で社業を通して社会のお役に立てれば幸いです。
3. ゴルフ(下手ですが)

(令和2年11月8日現在 会員数424名)

哀 悼



当会会員の平野泰康氏(ハイテック(株) 会長)は令和2年12月25日ご逝去されました。享年72歳。心からご冥福をお祈り申し上げます。

2021年前半の景気見通しは「横ばい状態が続いていく」が最多

企業経営委員会（伊勢徹委員長）は、昨年12月に「第22回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2021年前半の景気見通しや各社の業績予想、事業承継、M&Aについて177社（回答率43.7%）から回答が寄せられた。

主 な 項 目

◆現在の富山の景気動向は？ 横ばい状態が続いている 38% 緩やかに後退している 36% 後退している 14% 緩やかに拡大している 11%	◆富山の2021年前半（1～6月）の景気の見通しは？ 横ばい状態が続いていく 46% 緩やかに後退していく 22% 緩やかに拡大していく 19%
◆貴社の2020年度設備投資は前年比でどうなる見通しか？ 増額 22% 前年度並 35% 減額 43%	◆貴社の現状の雇用人員をどのように感じていますか？ 不足している 36% 適正である 48% 過剰である 16%
◆事業承継の状況は？ 現在進行中である 22% すでに完了している 15% 必要性を感じない 22%	◆M&Aについてのイメージは？ 良い手段だと思う 60% 良い手段だと思わない 13% よく分からない 27%

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
3月3日(水) 17:00～18:30	全会員	3月幹事会・会員定例会 講師：(株)ラクスル 代表取締役社長CEO 松本 恭攝 氏	富山第一ホテル
4月8日(木)	全会員	第34回全国経済同友会セミナー	オンライン開催
4月14日(水)	幹事以上	幹事会	富山電気ビルディング
4月27日(火)	全会員	令和3年度定時総会・60周年記念式典・祝賀会	ANAクラウンプラザホテル富山

※新型コロナウイルス感染状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

〔表紙写真〕

県外視察

（地域創生委員会：高松、文化スポーツ委員会：松江）

地域創生・文化スポーツの両委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を充分に実施の上、県外視察を実施した。

地域創生委員会は高松市を訪れ、スマートシティ推進や民間主導による中心商店街活性化の取組を視察し、参加者は熱心に質問や意見交換を行った。

文化スポーツ委員会は「小泉八雲所縁の地を訪ねる」をテーマに松江市を訪問した。八雲の曾孫で小泉八雲記念館館長の小泉凡氏に解説をいただきながら視察し、参加者は八雲に関する知見を深めた。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

http://www.doyukai.org/



昭和46 (1971) 年 大阪・藤井寺球場にて (後列左から3人目が筆者)



野球に導かれた青春時代

株式会社サプラ 取締役会長

五十嵐 博明

私が子供の頃、スポーツと言えば「野球」であった。ピッチャーに憧れていた私は、小学5年生の頃から、家に帰るといつも剣岳の稜線を見ながら一人で投球練習をしていた。

中学で野球部に入ったが、ピッチャーとしての厳しい練習のため、1年生の冬に極度の貧血になり倒れてしまった。医師から入院を勧められたが、数か月通院し毎日輸血を受けて何とか回復した。

中学2年の冬、突然父が亡くなり、「人生とは、思い通りには成らないものだ」と知った。その後は、早朝から農作業・学校・クラブ活動の生活となり、冬休みは土方のアルバイトに行き大人達と一緒に働いた。

中学3年生になると、家に何度も高校野球の関係者がスカウトに来ていた。

私は、高校に行かず「画家」になりたいと思っていたが、家族から反対され、結局、富山商業高校に進学し、軟式野球部に入ることにした。学校から硬式野球部への誘いを受けたが、家の事情を話し断った。甲子園への夢は既に諦めて

いた。

3年生の夏、軟式野球の全国大会（大阪）で、優勝候補の地元校を完封すると、その夜は、同窓会のお世話になり道頓堀の中華料理店でご馳走になった。その席で、コクヨの重役さんから、「君は、コクヨに来なさい」と声を掛けられた。富山に帰って母親に話すと、「県外は諦めてくれないか」と言われ、その話は無くなった。

暫くすると、軟式野球部の部長から「日本海ガスから誘いが来てるぞ」との話があり、私の道は決まって行った。そして、今は亡き新田嗣治朗氏との不思議な付き合い、八朗氏とのJC活動や企業経営に奔走することに繋がって行った。

甲子園には行けなかった私の「野球」だったけど、人生の方向を導いてくれたことを考えると、何か不思議な気持ちになる。「栄冠は君に輝く」を聞くと、今も胸が熱くなる。夕陽に染まる剣岳の稜線を眺めては、野球と共に迷走した青春の一コマを思い出す。